



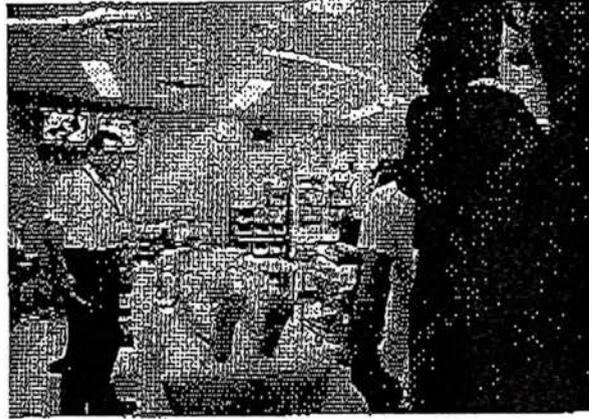
③ 研究施設訪問

27日(火)の高エネルギー加速器研究機構(KERK)訪問では、広大な地下空間に広がる大型放射光施設を見学し、最新の加速器技術や測定器技術について説明を受け、宇宙の起源、物質や生命の根源の探求につながる研究内容に皆、強い関心を示していました。

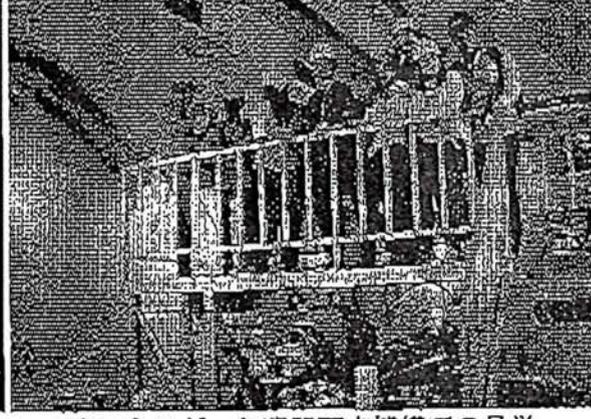
また、28日(水)には千葉市稲毛にある放射線医学総合研究所(放医研)を見学し、重粒子線を用いた最新のがん治療に関する医学研究や、万が一に備える緊急被ばくに関する医療現場で使われる診断装置等に触れることができました。体内に取り込んだ放射性物質を計る装置を実際に体験し、もちろん問題が無いことを確認することで、放射線医学を身近に学べる良い機会になりました。

④ 外務省表敬訪問

28日(水)には10人のグループが外務省を訪問し、中南米局高瀬寧局長を表敬しました。局長より日本とラテンアメリカ諸国は「共に発展」、「共に主導」、「共に啓発」という3つの指導理念のもと協力関係を進めている



放射線医学総合研究所(千葉市)にて



高エネルギー加速器研究機構での見学



さいたま市立大宮北高校から出発する際に同校生徒達の見送りを受ける

さいたま市立大宮北高校にて。書道体験

また、今回の特別プログラムは、大学や研究機関などの関係者の皆様のご支援により実施することができました。深く御礼申し上げます。

「日本という国を知ることができて幸運だった。将来、是非日本に留学し、日本とコロンビアの架け橋になりたい」と語った学生もいました。コロンビアの学生は訪問先等での対応には英語で基本的には問題がありませんでしたが、生活上の細かい注意事項などはスペイン語で説明することがより適当である、などの知見を得ることができました。このような経験を来年度以降のさくらサイエンスプラン事業に活かしていきたいと考えています。

こと、日本はコロンビアの平和交渉プロセスを支援してきたこと、今回の訪問が有意義なものになることを期待することなどが語られました。また、コロンビア側からは「来日は幼いころからの夢だった」、「日本の大学への進学の意味を高めた」などの発言が続きました。

⑤ 駐日コロンビア大使館ウジヨア領事表敬  
30日(金)には駐日コロンビア大使館ホセ・フランシスコ・ディアス・ウジヨア領事を表敬しました。領事から学生に向け、「内戦も終わり平和が達成された今、コロンビアに必要なのは科学技術の発展である。日本では平和を得たのちに科学技術がめざましく発展を遂げた。コロンビアでは若い世代がこれからの国造りの礎である」と励まされ、一行の今後の活躍と両国間の協力の進展への期待が述べられました。

3. むすび  
招へいしたコロンビアの高校生や大学生は皆、優秀で、積極的に日本の科学技術を体験しようとしていました。日本を立つ日には、